

道徳の時間学習指導案

呉市立東畑中学校
教諭 松田 百合

- 1 日 時 平成22年12月13日(月)
- 2 学 年 第2学年
- 3 主題名 よりよい社会の実現 [内容項目4-(2)]
- 4 ねらい バスという公共の場で、若い母親、バスの運転手、乗客たちが相互に配慮しながら互いを思いやる光景を通して、他者への配慮や思いやりを大切にしながら進んで社会とかかわり、気持ちのよい社会をつくっていかうとする態度を養う。
- 5 資料名 「バスと赤ちゃん」(出典：暁教育図書 中学生の道徳1「自分を見つめる」)

6 主題設定の理由

公德とは、社会生活の中で守るべき正しい道であり、それを大切にできる心が公德心である。この公德心が一人一人の日常生活の中で具体的に生かされることで、住みよい社会が実現できる。公德心を高めていくためには、「～ねばならない」といった側面からとらえさせるのではなく、よりよい社会の実現のためにどのようなことができるのかという自発的な心情を基盤とした実践意欲を育てていくことが重要である。中学生の時期になると、社会へと目を向けられるようになり、よりよい社会の実現を求める気持ちも強くなってくる。その反面、自分のこととなると、公の場においても自己中心的な言動をとってしまうことも少なくない。こうした時期に、社会生活において互いに迷惑をかけることのないような行動の仕方を身に付けるとともに、自他への配慮と深い思いやりを大切にしていこうとする態度を育てる必要がある。

本学級の生徒は、概ね規律を守ることにはできており、ボランティア清掃にも多くの生徒が積極的に参加をしている。また、学校行事などを通じ、相手の立場を考えたり、協力したりする心情などが培われてきている。しかし、その場の状況や相手の気持ちを十分理解できず、自分勝手な行動をしたり、自己中心的な言動をとってしまったことがある。その結果、人間関係にトラブルが生じてしまう場面も見られる。

学校評価における生徒アンケートからは、よりよい学校生活を送るために、自他への配慮と思いやりを大切にしようとする意識が高いことがうかがえる。こうした意識をさらに伸ばし、公共の場でも発揮できるように、本主題について考えさせていきたい。

本資料は、混雑したバスの中で泣き出した赤ちゃんをめぐる若い母親、運転手、乗客たちの話である。母親、運転手、乗客たちが相互に配慮し思いやる光景に、バスという小さな社会のよりよい在り方を見ることができると考える。母親から広がる思いやりの連鎖によって形成された道徳的世界について考えることを通して、他者への配慮や思いやりを大切にしながら、気持ちのよい社会をつくっていかうとする態度を養うことができると考える。

指導にあたっては、本資料の特徴を生かした発問の構成としていきたい。本資料は、登場人物のすべてがよい人であり、互いを思いやる行動をとる。中心発問の前に、降りようとする母親の心情、マイクで訴えた運転手の心情、拍手をした乗客たちの心情を考えさせることで、バスという公共の場で起こった思いやりの連鎖について考えさせていく。また、そうした構図が視覚的に分かりやすいように、板書を工夫していく。中心発問では、「このバスの出来事から16年たっても目頭がジーンとくるのは筆者が何にジーンとくるからだろう。」と問い、他者への配慮や思いやりを大切に「場」全体の雰囲気について考えさせる。その際には、自分の考えを書いたワークシートをもとに、まずはペアでの話し合いを行うこととする。視点の違いを考え、相手を替えながらペアでの話し合いを進めることで、自分の考えを補強したり、違いに気づいたりすることができる。さらに、ペアでの話し合いを生かして全体交流を行うことで、ねらいとする道徳的価値について、考えを深めていけると考える。終末で、東京メトロの「またやろう」シリーズのポスターから、自分のできる周りの人へのちょっとした配慮の大切さについて考え、互いが気持ちよく過ごせる社会をつくっていかうとする態度につなげていきたい。

- 7 準備物 掲示物(場面絵、短冊等)、ワークシート

8 指導過程

段階	生徒の学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点 (○) 評価 (☆)
導入	1 赤ちゃんのイメージを出し合う。	○赤ちゃんと聞いてイメージすることはどんなことですか。 ・小さい ・かわいい ・世話が大変 ・泣いたらうるさい	○簡単に、資料への方向付けを行う。
展開	2 資料を読み、それぞれの場面について話し合う。	○バスの中で何が起こりましたか。 ・人の熱気と暖房とで赤ちゃんが泣き始めた ・お母さんが降りようとした ・運転手のアナウンスをきっかけに乗客からの拍手が起こった ○「待ってください。降ります。」と言ったお母さんは、どうして降りようと思ったのでしょうか。 ・赤ちゃんが泣きやみそうにないから ・文句を言われたらいやだから ・とにかくこの場を離れたかったから ・このまま赤ちゃんが泣き続けたら迷惑をかけるから ・周りの乗客に申し訳ないから ○「目的地はここですか。」と聞いた運転手はどんなことを考えながら聞いたのでしょうか。 ・降りるところはここではないはず ・本当に降りたいのだろうか ・誰か席を替わってあげてもいいのに ・このままここで降ろしたらかわいそうだ ○一人の拍手につられて乗客全員がした拍手には、どんな思いが込められていたのでしょうか。 ・大丈夫だよ ・安心して乗っていてね ・赤ちゃんは泣くのが仕事だよ ・お互い様だよ	○資料の状況を簡単に確認する。 ・暑いバスの中、ぎゅうぎゅうづめ等。 ○今日は一人を中心に追うのではなく、みんなの気持ちを考えていくことを伝える。 ○乗客や運転手を気遣うお母さんの気持ちに共感させる。 (補)「気の毒そうに小さな声で」言ったのはどうしてだろう。 ○母親や赤ちゃんのことを考える運転手の思いやりをおさえる。 ○拍手(思いやり)をきっかけに、お母さん、運転手、乗客の相互に思いやる心が連鎖していることに気付けるように板書を工夫する。
閉	3 主人公を感動させたものについて考え	◎このバスの出来事から16年たっても目頭がジーンとくるのは筆者が何に	○16年たっても筆者が胸を熱くする車内の光景にある「価値」

<p style="text-align: center;">展 開</p>	<p>る。</p> <p>①ペアでの話合い</p> <p>②全体での話合い</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>ジーンとくるからだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転手さんの心遣い ・赤ちゃんとお母さんが降りることにならなくてよかったという思い ・バスの中の心地いい雰囲気 ・みんながお互いを思いやる温かい空気 <p>○今日の学習で大切だと思ったことをまとめましょう。</p>	<p>を考えることでねらいとする道徳的価値について考えを深めさせる。</p> <p>○視点の違いを考えながら、ペアでの話合いを、相手を替えながら行う。</p> <p>○ペアでの話合いを生かして全体交流で考えを深められるようにする。</p> <p>☆よりよい社会の実現のためには、他者への配慮や思いやりが必要であることに気付いている。</p>
<p style="text-align: center;">終 末</p>	<p>5 ポスターを見ながら考える。</p>	<p>○このポスターについて、共通するキーワードは何か考えながら、みてください。</p>	<p>○東京メトロの「またやろう。」シリーズのポスターの中からいくつか紹介する。 (※著作権に留意する)</p> <p>○公共の場での周りの人へのちょっとした心遣いで、気持ちのよい場が共有できることに気付けるようにする。</p>